

岐阜提灯ならぬGifu CURTAINが クリニックを救う

一般社団法人 岐阜県羽島郡医師会 会長
社会医療法人 蘇西厚生会松波総合病院 理事長 松波 英寿

私たちは COVID19 の検体採取を行う医療従事者の感染機会を減らす、安全で安価な方法を実践していますので御紹介します。

ドライブスルーで検体採取を行う場合、【写真 1】のように、電話ボックスのような装置内に医師が入り、医師が隔離された状態で患者の鼻腔から検体を採取する方法が見られます。

多くの施設ですでにこの方法が採用されていますが、電話ボックスと医師が両手を挿入する手袋（右の写真の白いその手袋）が、多くの装置では一体化されているため、一人の患者の検体採取が終わるたびに、医療関係者が患者さんに触れた手袋や電話ボックスの外面を消毒しなければなりません。この操作は煩雑なうえ、消毒する人の感染機会が存在します。また、この方法では大人数を短時間で行うことはできません。

一方、私たちは、帰国者・接触者外来の経験を活かし、安全に行えるドライブスルー方式の岐阜地域 地域外来・検査センター（PCR センター）の運用を、このほど始めました。

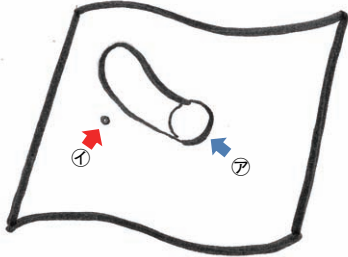
ポイントは3つです。

- ① 支払いも含め、一切、物のやり取りを患者と医療従事者の間で行わない（患者データはすべて事前に入手して完全予約制にする。当日必要な物品は予め紹介医を通じ患者に渡しておく。支払いは pay pay か請求書による後日支払いのみとする）。
- ② 作業者の安全が確保されるまでは（後述の Gifu CURTAIN をはり、扇風機を回すまで）、車内（患者）と車外（作業者）の会話は携帯電話越しに行う。
- ③ 3重の飛沫防御対策を行い、PPE への患者の飛沫の付着の可能性を限りなく0にする。

③の具体的方法として、

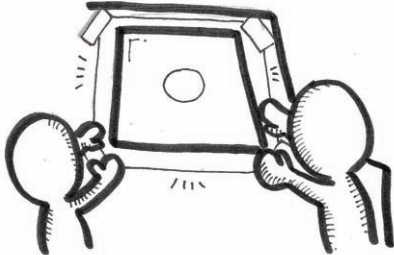
- a ミトン型の手袋が付着加工してあり、検体回収用の穴があけてある、特殊ビニールカーテン（**図 1** Gifu CURTAIN 実用新案出願中 双葉産業 FAX 058-388-0180 で入手可能）を運転席の窓枠に貼る（**図 2**）。

図1 PCR検査用手袋付カーテン(Gifu CURTAIN)



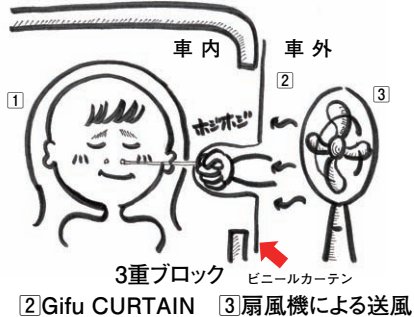
検査担当医師が②腕を入れる手袋部分と、①検体を取り出す小さな穴が開いています。

図2 カーテンの使用法



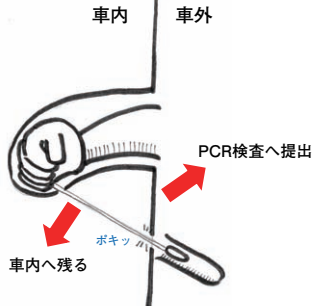
受付で窓を下記のビニールカーテンで覆います
※その後、窓を開ける

図3 飛沫防御策



3重ブロック ビニールカーテン
①頭袋 ②Gifu CURTAIN ③扇風機による送風

図4 検体採取後の回収



- b 検体採取時に、患者に鼻腔の位置に相応する場所に穴をあけたビニール袋をかぶってもらう（**図 3 の①頭袋**）。Gifu CURTAIN のミトン型の手袋越し、患者がかぶった頭袋の穴越しに検体を採取する（**図 3 の①、②、図 4**）。
- c 医師の斜め背後から車に向かって常に扇風機で風を送る（**図 3 の③**）。すなわち仮に患者が検体採取時に咳・クシャミをしても、ビニール袋（頭袋）から車内に拡散する飛沫は少量であり（**図 3 の①でブロック**）、運転席にビニールカーテン（Gifu CURTAIN）が貼ってあるため車内から車外に飛散する量はさらに少なく（**図 3 の②でブロック**）、医師の斜め背部から常時風が吹くので（**図 3 の③でブロック**）、医師の PPE に飛沫が付着する可能性は極めて0に近いと予測される。したがって、医師は通常の PPE に守られた上に、風、Gifu CURTAIN、頭袋に守られることになるため、PPE が汚染される可能性が極めて低くなり、PPE の着脱時のリスクが著しく軽減する。

また、これらのビニール袋、ビニールカーテンは患者自らが回収して自宅で処分してもらうため、事務員等による物品回収に伴う事務員の感染リスクもなくなる。これらの用具を使用すれば、欠乏している PPE の消費が節約でき、なおかつ検査センターのすべての職員の安全性が高められる。

これから気温が高くなるが、これらのビニール袋、カーテン、扇風機を使用すれば、熱がこもる重装備の PPE を使用しなくても、快適・安全に検体採取が行える可能性が高いと考えている。

COVID19 に限らず、インフルエンザ等疑う場合でも、対象患者が通常のインフルエンザに罹患しているのか？ 新型インフルエンザに罹患しているのか？ COVID19 に罹患しているのか？ 検査前はわからずに検体採取を行わなければならない局面が来ると思われる。つねにドライブスルーで検体採取できるわけではないので、通常のクリニックの診察でもこのカーテンが応用できると考えている【写真 2】。

Gifu CURTAIN の下方に追加のビニールシートとともに、診察室にある衝立に貼るだけ（あるいは今後開発予定の大型の Gifu CURTAIN）であり、極めてシンプルであるにもかかわらず有用性は高いと考えている。

Gifu CURTAIN の最大の特徴は安価で使い捨てが可能であり、結果的に感染リスクが低下することである。今後の日常診療の役に立つと思われるので、紹介しました。

ドライブスルーでの検体採取の動画は YouTube にアップしている動画「ドライブスルー 検体採取の工夫」<https://youtu.be/YzLGwQ8Kfoo> を参照ください。右記の QR コードからも動画をご覧いただけます。



【写真 1】神奈川県における小泉進次郎氏のデモンストレーション
詳細は 小泉進次郎 Official Blog by Ameba
<https://ameblo.jp/koizumi-shinjiro/entry-12591233917.html> 参照



【写真 2】 外来診察室での使用を想定して、衝立に Gifu CURTAIN をはり、下方に追加の通常のビニールを貼った。

